

# ひまわりからの メッセージ

139号

2023.5.8

NPO ひまわりの花内  
西濃圏域  
発達障がい支援センター  
発行人：中野たみ子

## 連休を終えて



長い連休が終わりましたが、皆さんはどの様に過ごされたのでしょうか。

私は、前半は二十冊ほどの贈呈本の礼状書きと、書類の整理に追われていましたが、後半には次女夫婦が白川郷へ一緒に行こうと誘ってくれたので、はじめて白川郷を訪れました。テレビで屋根の葺替えや消火訓練の放水の様子などを見知っていましたが、実際に江戸末期に建てられたという合掌造りを目の前にすると、長い歳月の重みを感じないではいられませんでした。

和田家には「家尊第一」という額が掲げられていて、それを家訓としてこの家を守り続けてこられたのかと、仏間を見させていただきました。小川に面した庭には樹齢はわかりませんが椿の巨木が八方に枝を広げ、八重咲きの紅い椿が

咲いていました。椿の根元には石が配され、石はもちろんです。庭一面が苔むして、その気に圧倒されて、しばらく椿の樹の前に佇んでしまいました。この家では、養蚕の様子のおわの展示も三階までされていきましたので、きっと椿の樹は桑の葉を蚕が食む音を聴き、家人の会話や働く姿をずっと見つけてきたことでしょう。

集落の田んぼの多くは、まだ代掻きが始まっていませんでした。観光客でごった返している連休が過ぎると、荒掻きが始まるのだそうです。村の暮らしが少し落ち着くのでしょうか。飛驒の里では春の訪れも少し遅いのでしょうか。桜も山吹も藤も咲き、芝桜が美しく植えられた庭もあり、「太田桜」と命名された八重桜にも出会うことができ、何年ぶりの旅で少しの余裕をもらったように思います。

さて、明日からまた忙しい日常に戻ります。心のスイッチをオフからオンに切りかえるのは、大人でも難しいものですが、子ども達は大丈夫でしょうか。「学校へ行きたくない」「休みたいよ」と言っている子どもたちの姿が目に見えなくなります。連休中はずっとゲームをしていたと言う子もいるかもしれませんが、生活のリズムが崩れてしまった子もいるかもしれません。そんな子どもたちに対して私たちは何ができるのでしょうか。心の奥底に秘めた子どもたちの心の叫びが私たちに聴こえるのかどうか、否、聴こうとしているのかどうか……。私たちの課題なのかもしれませんね。

## センター事業の中で

見えてきたこと、気づいたこと



「西濃圏域発達障がい支援センター」って、一体どんな仕事なのでしょ。時々「何でも屋ですわ」と言ってみたりする程、仕事は多岐にわたって来ました。県の障害福祉課の委託事業で支援対象の年令も乳幼児期から大人の方までですから、子どもの発達から福祉制度、就労に關することまで、灰色の脳細胞(名探偵ポワロ曰く)を駆使しています。その中でわかってきたことも多くあります。

### ① 語い教(理解言語)の少ない子どもたち

私は言語聴覚士(S.T)でもあるので、子ども達のことばの発達がとても気になります。子どものことばの発達からいうと、「マンマ」「ブーブ」など初語(始語とも言います)が出てくるには、その基礎に言語理解として「○○語は必要だ」と言われます。つまり、乳児期に周りの大人がどの位のことばを赤ちゃんに伝えているか、話しかけているかということが重要なのです。そう考えるとスマホに頼る育児の見直しが必要なのではないでしょうか。ことばの発達に会話は欠かせません。

### ② 子どもの家来になってしまう危険性

様々な相談を受ける中で、「この方は、きっと子どもの家来になるのだからな...」と思うお母さんに出会います。

「実は、自分の要求が通らないと大声を出したり暴れたりするので困っています。」「ゲームばかりやっているのを止めるように言っていると怒るんです。」「うちの子はゲームや好きなことには集中できますが嫌なことはやりません。私が注意すると私をひどく叩いてきます。」「等々です。」「それでお母さんは、どうなさるのですか?」「要求を通されるのですか?」とたずねると、殆どの方が「ハイ。」と答えられます。この方達の家庭では、まず家庭のルールがないことが多いのです。しかも、幼い時から子どもに決定権をゆだねておられるのです。もちろん、子どもの意見を聞くということは子どもの権利保障として大事なことです。これを幼児の段階からやってしまった場合には、子どもの要求を全て受け入れる。子どもの言うことを聞くという主従関係のようなものが出来上がってしまいます。この関係を何とかしないといけないと思っても、子どもの年齢が上げれば上がるほど親子関係の修復は難しくなり、結局子どもの言うことを常に聞き、そのうちに暴言や暴力におびえる生活になられる方が多いのです。子どもの要求に対して、聞き入れてあげられることと、聞き入れてあげられないことがあるのだということも幼い時か

う分らせていくことは、親としての勤めだろうと思います。このメッセージをお読み下さったなら、一度自分の身を振り返ってみて下さい。親として踏んばらなければならぬ時期を逃さないでほしいと願うからです。

### ③ 善悪の判断がつかない

最近、高校生や若者が善悪の見分けもできずに迷惑行為をくり返すことが報じられています。一体どうしてなのでしょう。善悪の判断はいつごろついてくるのでしょうか。少年犯罪に詳しい小栗正幸先生は、幼児期の童話の大切さを説かれています。日常生活の中で大人が良い見本を示すことは当然ですが、童話の中の勧善懲悪ということを感覚的に感じていくことも大切だということなのでしょう。

子育ては大変です。まして特性をもつ子であれば尚更でしょう。しかし、子ども達は親に自分を見てもういたく様々なことをやってのけます。感情的になったり、昨日言ったことと今日とで話がぶれていたので、子どもを混乱させるだけでしよう。頭ごなしに叱ったり、子ども自身を否定したり、おどして言うことを聞かせようとしたりしても、子育ては上手いきません。気持ちを受け止めた上でどうすると良いのかも大人が見本となって示していくべきなのではないでしょうか。

## 支援者の態度のタイプと その後の予測について

先日、大垣でケース検討会を開催しました。その折に井川先生が支援者のタイプとその後についての予測を話して下さいましたので記しておきます。それは私たちにも通じることです。

### ① 放任すると……

特性理解がなく、場当りの対応をした場合、将来の予測として、一方的で周囲とあつきが多い、思うようにならないので情緒不安定(他罰的、攻撃的)将来に見通しがもてない。

### ② 子ども追従だと……

言い出したら聞かないので放っておいたり、自分が折れて子どもの言いなりになった場合、将来は好きなことだけやり、努力を避けがちになる。基本的な生活能力が低いまま自立で苦勞する。

### ③ 過剰な訓練・指導をすると……

特性を問題視し、苦手領域克服のために過重な課題を設定し、子どもの思いに耳を傾けず自己選択を認めなかった場合、自信が持てず、どうせ否定されるのではないかと猜疑的になってしまふ。自己選択を相談せず怒られるので責任回避する可能性に挑戦することを怖がって回避、拒否する。無関心、無気力になってしまふ。

### ④ 権威的な指導をすると……

言うことを聞かせるために、ごほうびをちらつかせたり、子どもが折れるまで要求を続けたり、体罰を加えたりするような力による統制を続けた場合、相手の顔色をうかがって行動し自己責任がもてない、あきらめが早く回避的、行き詰まり感が出る二次障害に陥るなどが見られる。

⑤ 人格を尊重すると……

本人に応じた課題を提供し、提案を本人が選択、相談できる機会を提供し、自己選択や自己決定を見守り、自己肯定感を育てていくと、将来的に安定した性格が培われ、他人と協調でき、自己責任がもてる人間に育つ。職場においても、報告、連絡、相談ができる。

「この文章を讀むと、⑤の態度、関わり方が良いということは分かります。でも、実際には難しいです。」という保護者や先生方の声が聞こえてくる気がします。

家庭では、ご両親の子育てに関する考え方の違いもあり、母親が子どもを叱った時、父親はどうするでしょう。全く吾関せずという方もあるでしょうし、「そんなに叱らなくても……」と割って入って「お母さんが駄目だよね。」などと母親攻撃の方、あるいは、お母さんに輪をかけて激しく叱責するという方もいらっしゃるかもしれませんが、いかがでしょうか。両親のいざれかが感

情的になった場合、もちろん片方は冷静であってほしいですね。叱ったことが悪いのではなく、叱られるような行動そのものが良くないわけですから、叱った母（または父）を責めるのではなく、何故叱られたのか、お子さんの行動について自分で考えさせるようなことはかけが必要だと思えます。

母子家庭や父子家庭の場合は親一人で両方の役割をしなければなりませんから、大変です。子どもは自分のことを見てほしいという注目要求から、わざと良くないとわかっていながら行動することはどの子にもあることです。大人の方に心の余裕がないと、子ども達の気持ちに気づけないことも多くなります。

保育現場や教育現場でも時折声を荒げておられる姿を見ることがあります。「でも大声を出しても子どもの心を惹きつけることは出来ないですよ。大人の心にゆとりがないと子どもたちにも伝わってしまっ。本当に伝えたいこと、以心伝心で通じることなど育ちませんよ……」と、小声で心の内でつぶやく私ですが、この年齢になつたからこそ言えることかもしれません。

お知らせ

1/7 ピアサポート  
(ひきこもっている方の  
ひまわりの会)

1/2 センター親の会  
ストピアセンター6F

1/24 家族会  
(不登校・ひきこもりの  
お母の家族の会)

会に関する  
お問い合わせは

NPO ひまわりの花  
0584-84-8350

※ ソフトピアセンターや  
ストピアセンターへのお  
問い合わせはご遠慮  
ください。